

## 通所介護における生活行為の向上を視点とした ケアマネジメントに関する研究

研究代表者 白倉 京子 所属・職位 作業療法学科・准教授

### [要約]

プロジェクトの目的は、通所介護における生活行為の向上に関するサービスの実態等を明らかにし、要介護高齢者に対する生活行為向上マネジメントモデルを開発することである。

研究方法は、①通所介護事業所における生活行為向上への取組に関するデータベース分析、②通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査とした。結果の一部として、機能訓練のマネジメントプロセスごとに課題がみられ、特にアセスメントでは生活行為の何ができないのか、なぜできないのか、どうしたらできるのかという視点が十分でないことがわかった。そこで、通所介護研修として「生活課題解決型機能訓練研修」を開催した。

[研究組織] 研究分担者 常盤文枝（看護学科・教授）、星 文彦（理学療法学科・教授）

菊本東陽（理学療法学科・准教授）、張 平平（看護学科・准教授）、金さやか（看護学科・助教）

小池祐士（作業療法学科・助教）、河合綾香（研究開発センター・研究員）

### 1. 研究の背景

通所介護は、介護保険利用者の3人に1人が利用し、地域生活での自立を支援する身近な居宅サービスである。通所介護における基本的な取組については、基準省令（平成11年3月31日厚生省令第37号）や地域包括ケアの視点から、「生活機能維持・向上の観点から、入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談及び助言、健康状態の確認、その他日常生活上の世話及び機能訓練を行う」こととされている。この取組を行うにあたっては、基本的な方法として、アセスメントに基づく個別サービス計画の立案、計画に基づく、サービス提供、計画の評価及び見直しといったPDCAに基づくサービスの提供が必要である<sup>1)</sup>。

平成24年度介護報酬改定では、自立支援型サービスの強化と重点化がポイントとしてあげられた。通所介護に関しては、機能訓練を充実させるため、個別機能訓練加算Ⅱ（個人の生活上の行為の達成を目標としたプログラムの実施）が新設された。平成27年度介護報酬改定では、活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションを推進するための理念が明確化された<sup>1)</sup>。平成30年度介護報酬改定では、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現に重点が置かれた。通所介護に関しては、外部リハ職との連携による機能訓練のマネジメントが評価されること、及び、通所介護における心身機能の維持に係るアウトカム評価の導入が新設された<sup>2)</sup>。

地域包括ケアシステム推進の中で、通所介護における生活行為を視点とした機能訓練体制の充実とその成果には大きな期待が寄せられている。しかし、機能訓練が身体機能に偏っていること、機能訓練指

導員の有する職種は様々であること等により、機能訓練における生活行為向上を視点としたマネジメントプロセスがうまく遂行されていない現状がある。

### 2. 目的

通所介護において提供されているサービスの実態を明らかにし、生活行為向上を視点とした総合的な介護マネジメントモデルを開発することを目的とする。

### 3. 方法

1) 通所介護における生活行為向上への取組に関するデータベース分析

(1) 対象：介護サービス情報公表システム（厚生労働省・都道府県, 2016/2017）。

(2) 方法：9都府県（青森、千葉、埼玉、東京、静岡、長野、愛知、大阪、大分）のデータベースを入手し、通所介護事業所の設置主体、規模、職員体制、利用登録者数、加算の届出状況等について、探索的に分析する。

2) 通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査

[a. パネル調査]

(1) 対象：埼玉県・青森県・長野県の通所介護事業所のうち個別機能訓練加算Ⅱを算定する事業所、個別機能訓練加算Ⅱの該当者（利用者）と機能訓練指導員。

(2) 方法：郵送により、調査票を用い同一の利用者、機能訓練指導員を追跡するパネル調査を実施する。

(3) 調査時期(回)：平成30年1月(1回)、平成30年6月(2回)、平成31年1月(3回)

(4)調査項目：①事業所；基本情報、利用登録者、職員体制、機能訓練指導員の資格、雇用・業務形態、加算の届出状況等。②機能訓練指導員；職種、利用者に関する基本調査票、ADL・IADLアセスメント、機能訓練実施状況、使用している評価指標等。③利用者；基本情報、日常生活状況／心身機能、ADL、IADL、主観的健康観、WHO-QOL26。

(5)倫理的配慮：埼玉県立大学倫理委員会の承認を得た(No. 30301)。

[b. 先行事例視察]

視察先：デイサービス楽（大分県）、夢のみずうみ村浦安デイサービスセンター（千葉県）、総合ケアサービス株式会社創心會（岡山県）、医療法人社団東北福祉会せんだんの丘（宮城県）

#### 4. 進捗状況

##### 1) データベース分析

通所介護事業所数は、青森274、埼玉394、千葉100、東京441、長野398、静岡91、愛知860、大阪1,004、大分315、合計3,877であった。通所介護事業所数と、65歳以上人口との相関はみられなかった。設置主体は、営利法人33.9%、社会福祉法人26.9%が多く、医療法人、NPO法人等もみられた。自治体ごとには、埼玉県は営利法人が60%程度と高く、社会福祉法人が30%程度、大分、大阪、愛知、静岡も割合は類似していた。長野県は社協、地方公共団体、農協など様々な設置主体が混在していた。東京都と青森県、千葉県は、営利法人より社会福祉法人の比率が高かった。

利用者の要介護度は、いずれの自治体も、要介護1、2が多かった。

機能訓練指導員の雇用形態は、看護師・准看護師（非常勤-非専従）が、どの自治体でも多かった。個別機能訓練加算Ⅱ算定率は、平均36.2%で、算定率の高い自治体は、大阪府、愛知県、青森県、長野県であった。

##### 2) フィールド調査

[a. パネル調査]

調査対象は、2017年度介護サービス情報公表システムに登録されている事業所から、埼玉県122、青森県115、長野県165、計402事業所を抽出した。回答数は1月46件、6月33件、12月17件であった。

利用者は、運動機能障害、疼痛のあるものが多かった。健康状態については不満があるものの、生活の質はふつうと回答しているものが半数みられた。また、個別機能訓練、及び、デイサービス全体の満足度は高かった。

居宅サービス計画（ケアプラン）の目標は、健康管理、心身機能の維持・向上が多かった。機能訓練指導員は、利用者の日常生活上の課題としては、コミュニケーション、階段昇降、掃除・整理整頓、痛みの緩和、筋力向上、歩行・移動などが多かった。このうち最も優先順位が高いものとしては、歩行・移動があげられた。

[b. 先行事例視察]

設置主体は異なるが、リハ職がいる事業所を視察

した。いずれも生活行為の課題解決への取組として、できることできないことできそうなどところを見極めていた。その方法としては、①生活歴を基にしたコミュニケーション、②実際の生活行為の工程観察等が共通していた。

##### 3) 課題と対策

機能訓練のマネジメントプロセスごとに課題がみられた。特に、アセスメントでは、標準的な評価がない、生活行為の何ができないのか焦点化できていない、なぜできないのか(要因分析)、どうしたらできるのか(改善策)が十分でない状況がみられた。また、課題は職種ごとに異なる傾向がみられ、リハ職の視点を学ぶことがマネジメントに結びつきやすいと考えられた。そこで対策として、埼玉県「高齢者元気力アップ応援事業所」認証事業と協働し、機能訓練指導員の質を高めることを目的に、通所介護研修として「生活課題解決型機能訓練研修」を3回開催し、122名の参加を得た。

#### 5. 引用文献

- 厚生労働省,平成27年度介護報酬改定に向けて.  
[http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000055673.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000055673.pdf), (参照2016.06.15)
- 厚生労働省,平成30年度介護報酬改定の主な事項について, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000196991.pdf>, (参照2018.08.15)

#### 6. 研究発表

##### (1)論文

- 常盤文枝、白倉京子、張平平、金さやか、菊本東陽. 埼玉県の通所介護における個別機能訓練加算(Ⅱ)の算定状況と課題:個別機能訓練指導員の保有資格による影響. リハビリテーション連携科学. 20(2).167-173.2019

##### (2)学会発表

- Pingping Zhang. et al. Efforts to improve daily life performance in community-living elderly people who use daycare services-Review of Japanese literature people. Advanced Nursing-2019 Global Conference on Nursing Care & Education. 2019
- 常盤文枝、白倉京子、小池祐士、河合綾香、菊本東陽、金さやか、張平平:通所介護事業所における生活行為の課題解決に向けた機能訓練指導員研修会プログラムの作成と実際, 日本リハビリテーション連携科学第21回大会. 2019(予定)

#### 7. 外部資金

平成29-31年度「通所介護における生活行為の向上を視点としたマネジメントに関する研究」(JSPS補助金17K19827)